

経営比較分析表（令和元年度決算）

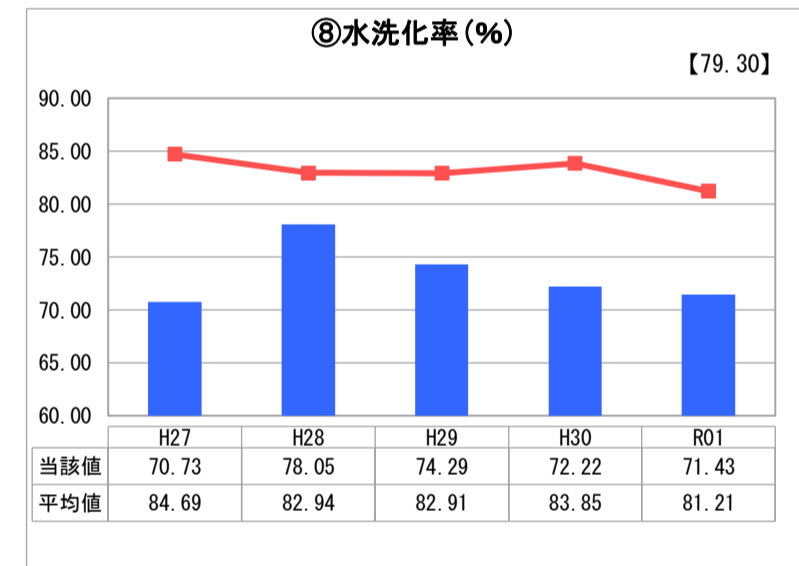
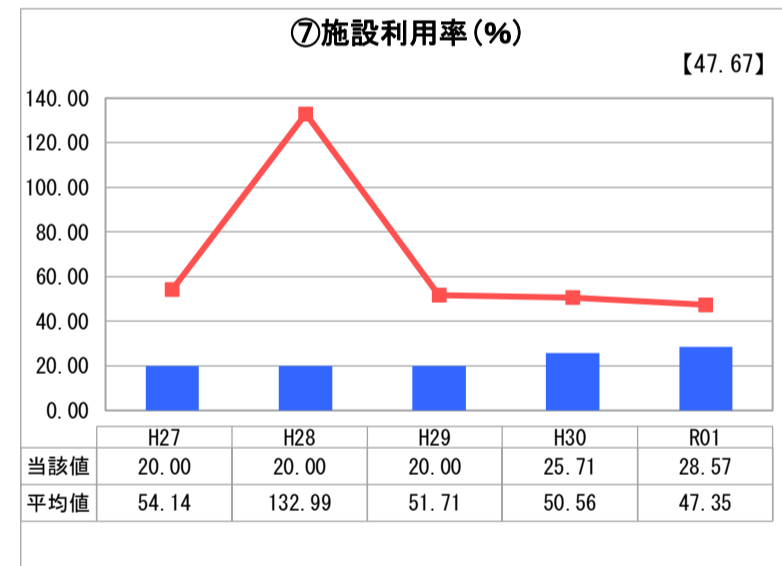
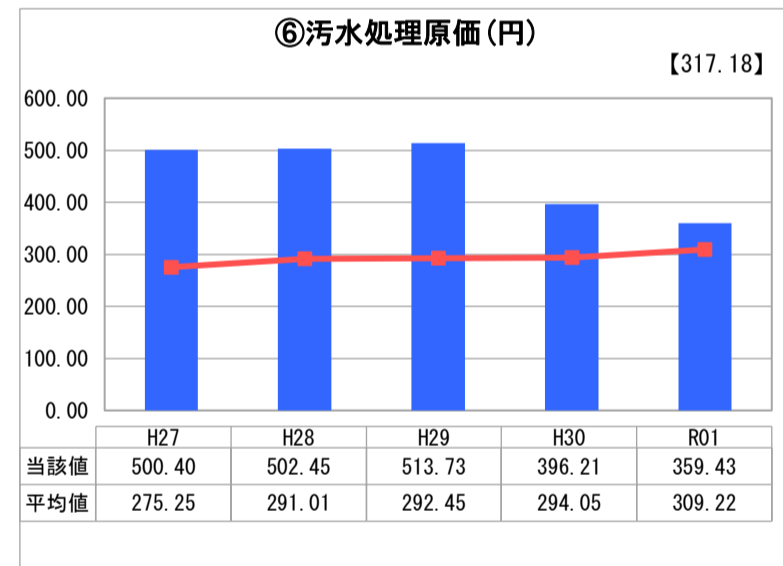
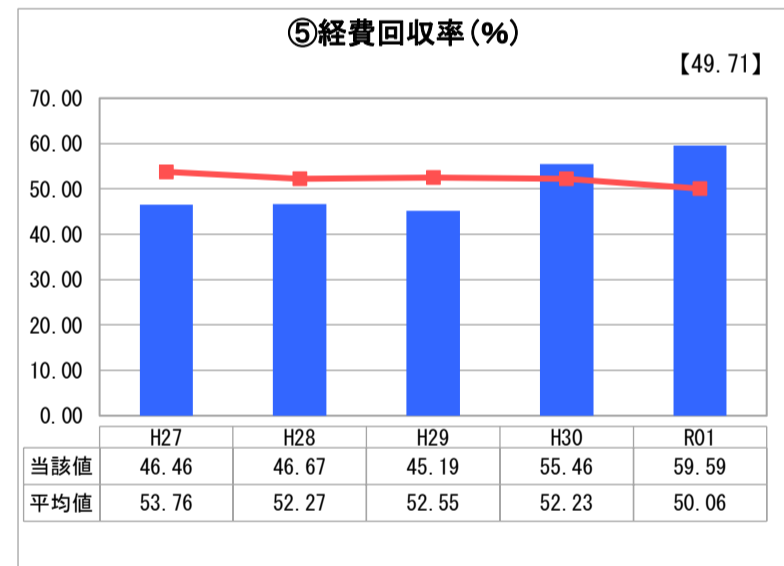
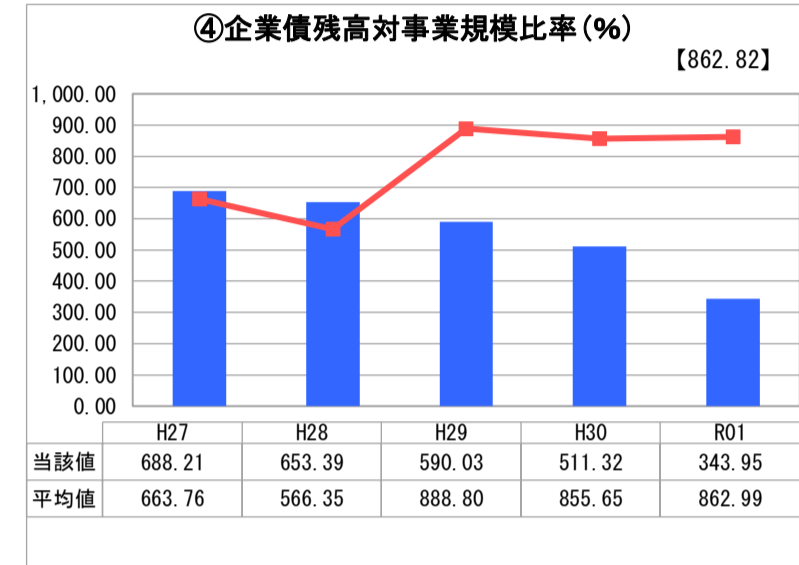
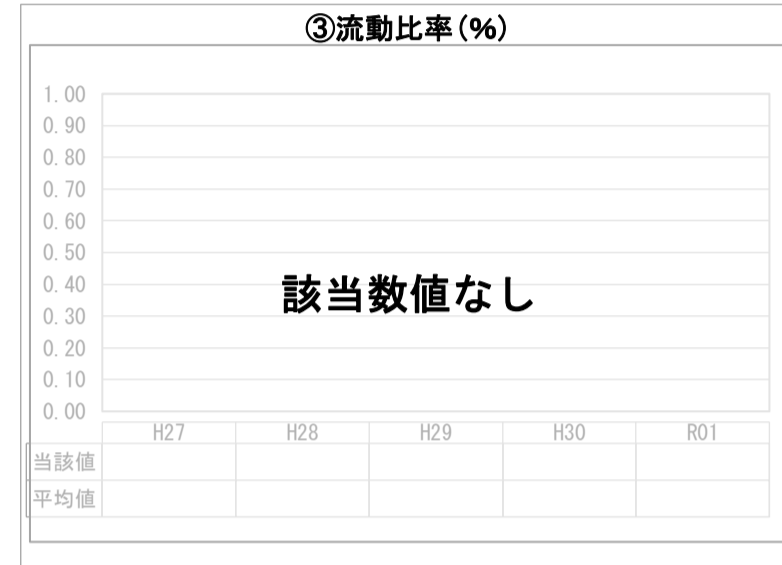
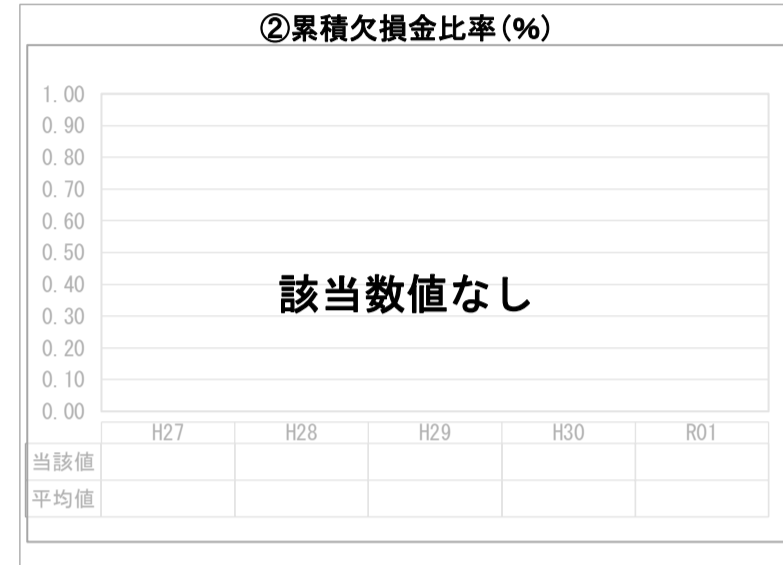
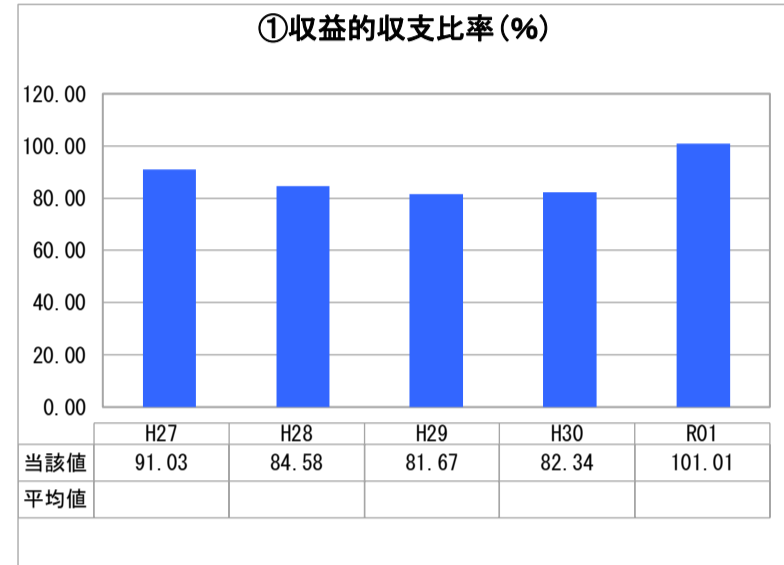
鳥取県 岩美町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.31	100.00	3,908

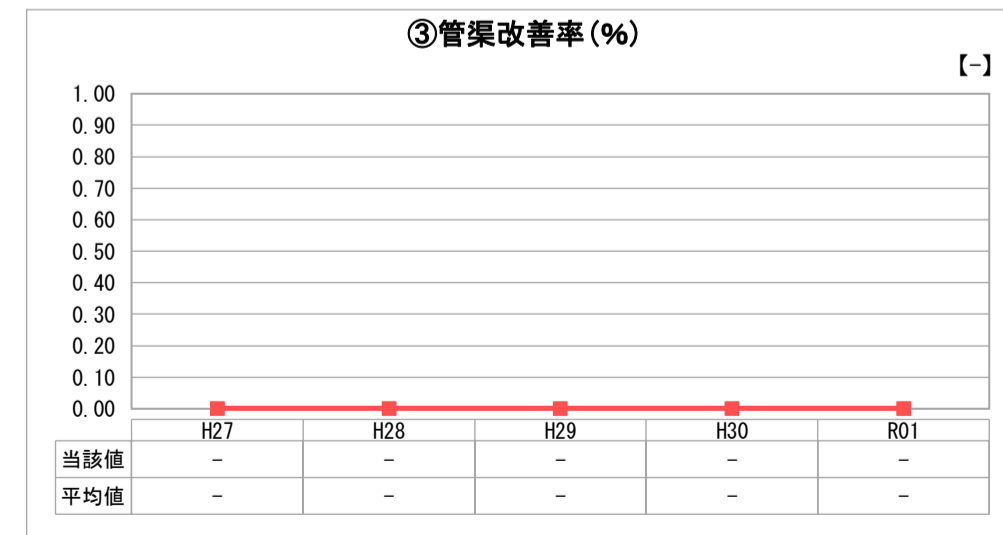
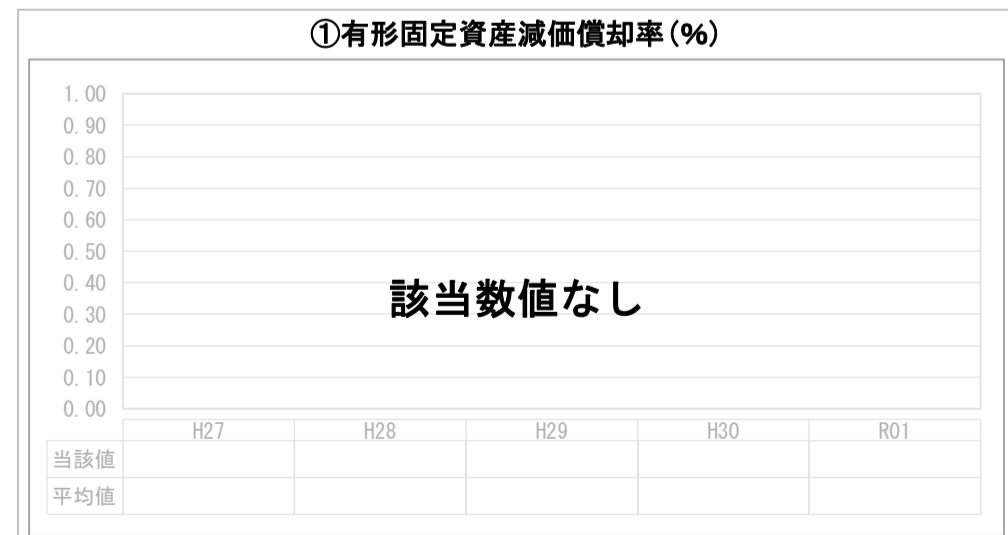
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,460	122.32	93.69
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
35	0.01	3,500.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率：一般会計繰入金の増加により市収支均衡した状態となりました。
 ④企業債残高対事業規模比率：新規の借入を行っていないため順調に減少しています。
 ⑤経費回収率については、料金収入が増加したため、約9ポイント増加しました。
 ⑥汚水処理原価は⑦施設利用率が増加したことにより料金収入が増えたため約37円減少しました。しかし、対象となる施設が極めて少ないため、維持管理費が割高となっており平均値を下回っています。
 また、本町の個別排水処理施設には、汚泥排出量の少ない事務所用建物が多いことから、⑦施設利用率が低い状況が続いています。
 しかしながら、維持管理は浄化槽法に基づいて行われるため、削減の余地がない状況です。
 また、今後、人口減少、節水機器の普及等により排水量・使用料収入ともに減少することが想定されます。水洗化率を100%に近づけていくこと、周辺の土地利用を見据えながら、汚水処理方法を見直していくことなどの対策を講じる必要があります。

2. 老朽化の状況について

23基の個別排水処理施設(合併処理浄化槽)のうち最も古いものは平成12年に設置しました。
 現在のところ老朽化による問題は発生していませんが、今後、機械設備の耐用年数が順次到来します。

全体総括

本町の個別排水処理施設は、集合処理区域(公共下水道及び集落排水処理施設)が存在する地区にあって下水道管の敷設が困難な地域に設置してあります。あくまでも、集合処理を補完するものであり、その経営に関しては集合処理と一体的に捉える必要があります。
 今後、施設の更新等に際しては、改めて汚水処理手法の見直し検討も行うことにより、長期的なコストの削減、投資の効率化を図る必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。